

## 第Ⅳ章 調査結果

### 1 節 三瓶小豆原埋没林発掘関連調査

#### (1) 聞き取り調査

三瓶小豆原埋没林の概要と分布範囲を調べるために、各種の聞き取り調査を行った。その結果、多くの埋没木が小豆原地区一帯に分布しており、これまでもかなりの数の埋没木が掘り出され売買取れたことなどが明らかとなった。なお、当該調査は、小豆原地区住民からの聞き取り、小豆原地区に関わりのあった周辺住民からの聞き取り、土木業者からの聞き取りにより行い、土木業者に対しては直接行った聞き取りの他、大田市及びその周辺地域の建設業者に対するアンケート調査も併せ行った。聞き取り調査に協力いただいたみなさんは、次のとおりである。

- ・小豆原地区在住者：竹内哲夫氏（自治会長;平成11年当時）他全地区民のみなさん
- ・周辺地区在住者：遠藤 達氏（鳥取県淀江町在住，調査地区土地所有者），松田襄治氏（大田市三瓶町野城，元小豆原地区在住者），森脇義信氏（三瓶町小屋原在住）他多数のみなさん
- ・建設業者：新井藤水氏（新井建設専務）他大田市一帯の建設業者のみなさん

#### 1. 調査結果

このたび調査を行った小豆原地区について、小豆原川を中心に上流部、中流部の掘り出し調査区周辺、下流部の稚児橋までの区間にわけて聞き取り調査の結果を整理する。

##### (1)上流部

小豆原川の最上流部にある水田や河川内では、過去にかなりの埋没木が確認されていることがわかった。森山シン氏や吾郷徳吉氏によれば、この地区一帯が昭和50年の水害で大きな被害が出たとき、横倒しになったスギの大木が3～4本出土し、土木業者が掘り出したことがあること。昭和18年の水害でもたくさんの埋没木が顔を出したこと。最奥部の水田から約300m下った場所で直立したスギの埋没木が出土し、大正13年に切り出されたことがあること。この埋没木は、直径が2.5mほどあり中央部が1mほど穴があいていた。切り出したのは2mほどで、現在でも根株が残っているはず。以前にも切り出したことがあり、この時が2回目であること。他にも横たわった大木があり、片方は埋まっていたこと。子供の頃、出土した埋没木の皮をはがして遊んでいたことなどが明らかとなった。

なお、河川敷内にいまでも埋没木があるはずだとの証言に基づき掘り出し調査を試みたところ、直径約70cm、長さ約6mほどの横たわったスギの樹幹を掘り出すことができた。この樹幹は、中央部で割れており、保存状態はさほど良好ではなかったが、心材部はしっかりしており水中で割れ目から精油成分が流れ出したほか、スギ特有の香りが確認できた。

##### (2)中流部

現在掘り出し調査を行っている水田やその周辺部には、直立した埋没木が多く確認されており、小豆原川の中にも2本の先端部を露出した埋没木があることや、遠藤 達氏宅の家の下に横たわっ



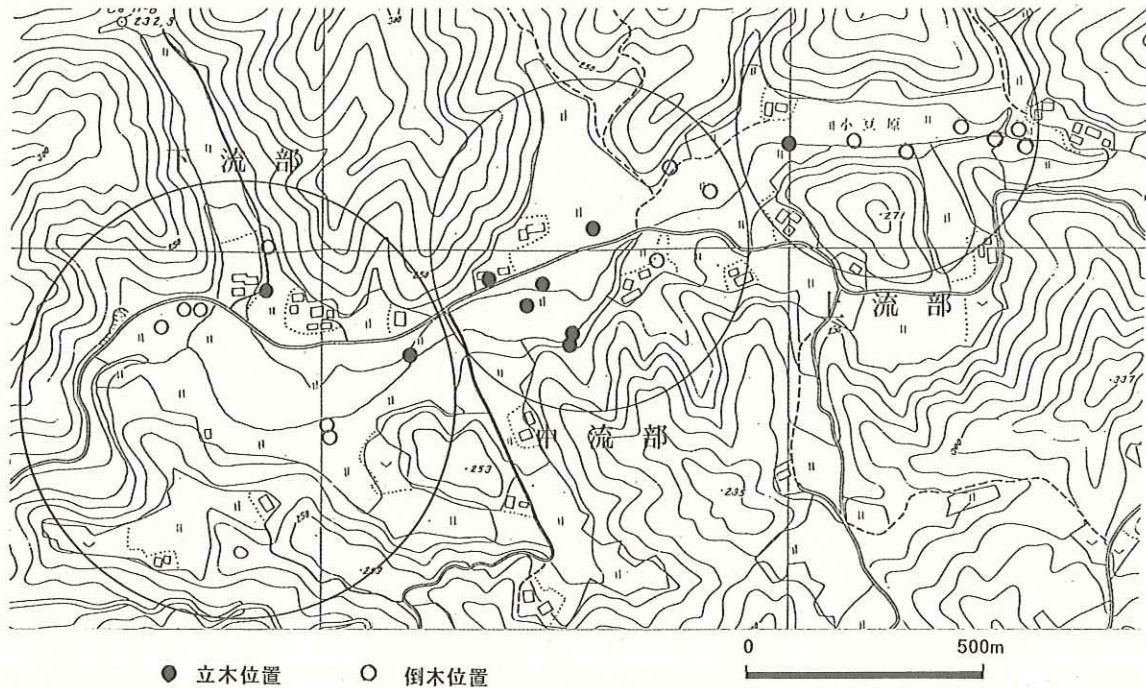


図4.1.1-1 聞き取り調査による埋没木位置

たスギの大木があること、吾郷信夫氏宅前で井戸の掘削のためのボーリングを行ったときにスギの樹幹を貫いたこと、竹内哲夫氏宅横の水路の下には、圃場整備時に直立した埋没木が確認されていること。その上流部の水田では、横たわった巨木が掘り出されたことがある（新井藤水氏掘り出し、その後の調査でこの樹幹はカツラであることが判明）こと、この地区には下駄の職人がいて下駄の製作を行っており、埋没木も使っていたことなどが明らかとなった。

### (3)下流部

掘り出し調査区下流にある小豆原川にかかる橋から稚児橋にいたる区間にも多くの埋没木があることがわかった。小豆原地区住民のみなさんからの聞き取り調査から、橋から20mほど下流の河川内には、以前先端部を切り出したことのある直立したスギの巨木が現在も残っており、直径が3mのものであること。吾郷利廣氏の牛舎の前にも、埋没木の先端部が顔をのぞかせていること（その後の調査でスギと判明）。同氏宅下流部ではこれまでにかなりの数の埋没木が確認され、一部が掘り出されていること。現在も道路の下に横倒しになった樹幹があること。左岸部の水田内からも数本の埋没木が掘り出されたことがあることなどが明らかとなった。

さらに、左岸部の河岸段丘部に以前住んでいたという松田襄治氏は、自宅周辺の川よりの斜面一帯に丸い穴がたくさんあいており、竹をつっこんでも届かないほど深かった。たぶん、木が腐った後の穴ではないかという。この他、稚児橋上流部でも埋没木が確認されており、森脇義信氏は昭和20年代に堰堤の上流部で直径40~50cmの露出した埋没木3~4本を確認しているということであった。

以上の聞き取り調査から、小豆原地区一帯には広範囲にわたり多くの埋没木が埋没しており、直立したものも少なくないことや、埋没木はスギがほとんどであること、地元では埋没木のことを「埋もれ杉」と呼んでいることなどがわかり、その後の埋没林調査に大いに寄与することとなった。なお、小豆原地区において聞き取り調査により明らかとなった埋没木の確認状況は図4.1.1-1のとおりである。